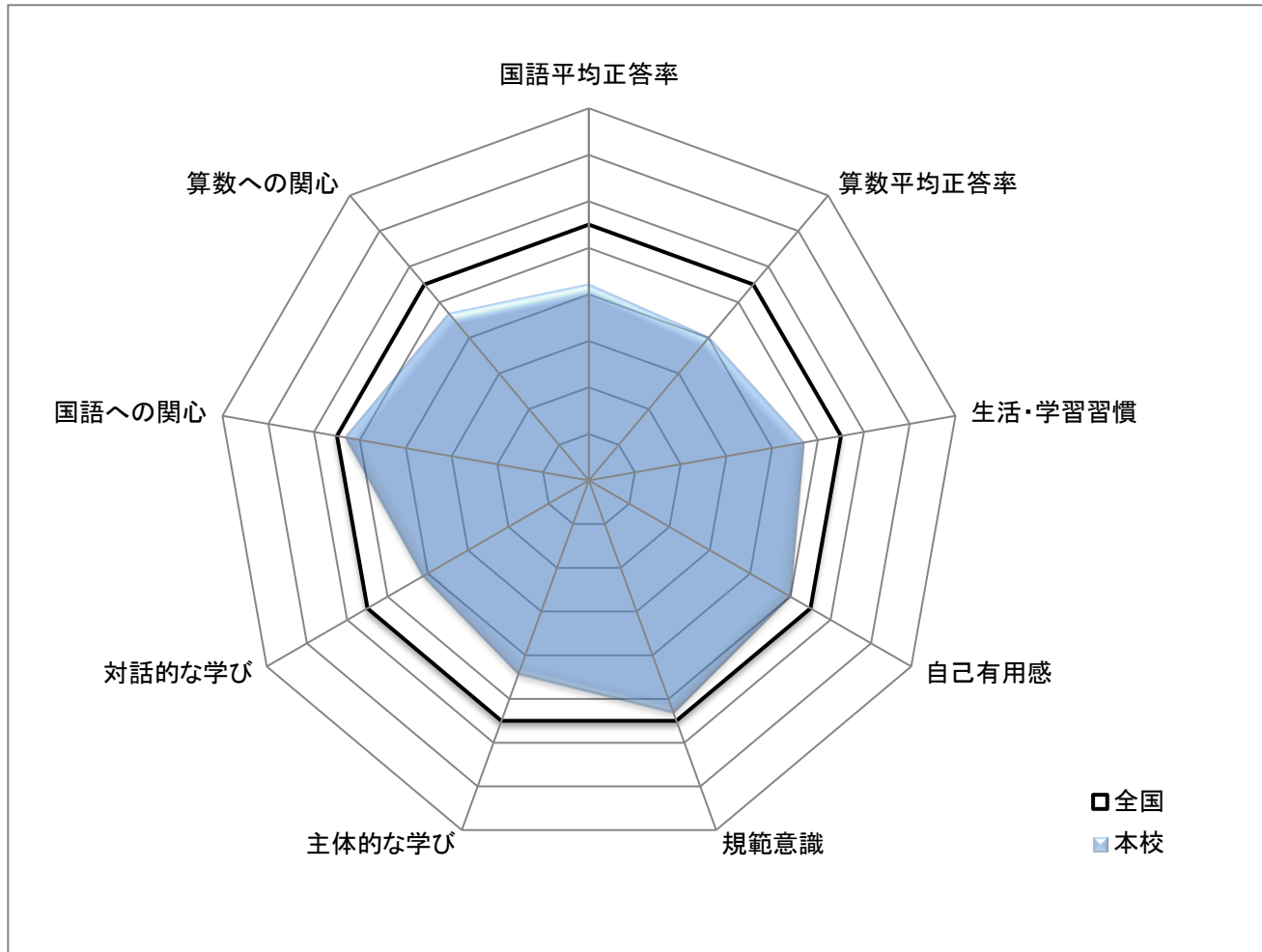


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

○国語科、算数科共に平均正答率が全国平均点と大きく乖離しているのは、個人差のばらつきが大きいためである。  
 ○国語や算数の学習が大切で、将来社会に出た時に役に立つと思っている児童は多いが、各教科の学習を理解できている児童となると、少なくなる。  
 ○対話的な学びを行う積極性が一部の児童に限られている。  
 ○学校生活での規範を守ろうと考えている児童が多いが、個人差が大きい。

《授業改善のポイント》

○国語や算数の正答率を上げるには、各教科への関心が高くないとできないため、関心を高めるような導入や展開を取り入れていく。  
 ○各教科で対話的な学びができるように、多様な対話方法を工夫する。それにより、自分の意見と比べながら友達の意見を聞いたり、友達の意見を聞いて「なるほど」と思ったり参考にしたりして、友達の意見を自分の考えに生かすことができるようにする。  
 ○ユニバーサルデザインを意識した授業改善を行い、習熟の深浅問わず、全員が授業に参加し、考えを深めることができる手立てを講じる。  
 ○下学年から基礎的な計算力を高める手立てを講じる。

《チャートの特徴》

○国語平均正答率、算数平均正答率が全国の数値と比べて7割程度に留まっている。  
 ○国語への関心、自己有用感、規範意識は、全国基準より下回ってはいるが、他の項目と比べると 全国基準に近い。  
 ○主体的な学びと比べて、対話的な学びに対する肯定的回答が大きく下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

○個人面談や通知表などで、児童の学習の成果と課題を共有していくとともに、家庭学習での定着を促す。  
 ○算数では、ベーシックドリルの結果を受けて、放課後補習及びスキリタイムを有効活用する。  
 ○個々の習熟度に応じた復習を行うために、ドリルパークを活用する。